

関東中学校バスケットボール大会派遣審判報告

1. 報告者: 吉田 一貴 (北相)
2. 大会名: 令和元年度 第49回関東中学校バスケットボール大会
3. 大会期間: 令和元年8月6日(火)～8日(木)
4. 会場: 埼玉 深谷市総合体育館ビッグタートル/桶川サンアリーナ
5. 大会レベル: 各都県上位2チーム(東京都・開催県は上位4チーム) 男女各20チーム
6. 審判動向: 8月6日(火): 審判会議・ミーティング、大会1日目(1回戦)
8月7日(水): 大会2日目(2・3回戦)
8月8日(木): 大会3日目(準決勝・決勝)

7. 報告:

【審判会議・ミーティング】

講義1: 村上 恵美氏 (指名)

○ガイドライン・新ルールについて

(1)ファウルとは

→触れ合い・振る舞いに対するファウルを同様に毅然と対応する必要がある。

(2)ボールの扱い方

(3)不注意などでゲームを止めてしまった時の対応

→どちらかのチームが不利にならないように、クルーで確認し、最終的にはCCが決断する。

(4)新ルールについて

・スローイン ・ドリブル ・24秒ルール ・ダブルファウル ・テクニカルファウル (TF)

講義2: 加藤 暁生氏 (指名)

○マンツーマンペナルティの対応について

(1)基本的な知識

(2)審判員の任務

・1回目の警告 → CCは立会い。U1・U2はコート上のプレイヤー管理。

・2回目の警告 → CCは立会い後、TFを宣告。U1・U2はコート上のプレイヤー管理。

(3)他の行為による罰則との順番

(4)その他

講義3: 渡邊 整氏 (関東ブロック審判長)

○3PO basic

[プライマリーとメカニクス]

・ボールサイド = ストロングサイド

・ローテーション

・リードベーシック、センターベーシック、トレイルベーシック

・クロスコールとアングルの理解

リードからの「クロスコール」は避ける ※オープンアングルはコール

- クロックコントロール（Shot Clock・End of Quarter（EOQ）・End of Game（EOG））
- アウトオブバウンズ（OOB） コンビネーション
- プレゼンテーション

基本のラインをしっかり判定する。100%明らかなラストタッチが確認できた時はヘルプ。

シャープに凛々しく、アスレチックな姿、声の使い方、コミュニケーション

→コミュニケーションは、判定の根拠と Point of Contact（POC）を明確に説明できるように。

POC はこだわる。

○インテグリティについて

基本的な考え…バスケットボールの価値を高めるために、一般の方々にとって見苦しい振る舞いをなくす

【担当ゲーム】

8月6日（火） 女子1回戦

富士吉田市立明見中学校（山梨） 対 埼玉栄中学校（埼玉）

CC：五十嵐 菜美氏（東京） U1：佐藤 圭氏（群馬） U2：吉田 一貴

主任：丸山 淳氏（山梨）

<ミーティング内容>

- 全体を通して、吹くべき人がしっかり笛を入れていたので、スムーズにゲームが行われていた。
- 1Qでは、CCやU1のエリアでの事象が多かったが、焦らずに出来ていた。
→2Qのテンポセッティングに繋がった。
- ダブルコールになった際、自分のプライマリーであれば自信を持ってTOコールに行く。
- C（センター）の見方で、クロスステップを使いアングルを取る工夫が必要。



8月7日（水） 男子2回戦

江戸川区立小岩第四中学校（東京） 対 春日部市立豊野中学校（埼玉）

CC：小澤 朋克氏（群馬） U1：吉田 一貴 U2：大和田 雅人氏（茨城）

主任：大山 賢史氏（指名）

<ミーティング内容>

- クルーでよくアイコンタクトをしながらゲームに望んでいた。
- 自分のプライマリーで力強い判定もあった。
- OOBの訂正の仕方。
- ローテーションのタイミングはクルーとして課題。クローズダウンの活用。
- Warning は会場やクルーに伝わるように、明確に声を出して示す。



【グループミーティング】

8月8日（木） 女子準決勝

八王子市立第一中学校（東京） 対 下妻市立下妻中学校（茨城）

CC：安西 郷史氏（埼玉） U1：九里 亜紀氏（埼玉） U2：赤羽 沙耶氏（栃木）

主任：穂川 苑子氏（群馬）

進行：一杉 あきの氏（東京）

参加：佐藤 圭氏（群馬） 古屋 勝司氏（山梨） 吉田 一貴

＜ミーティング内容＞

- 声を使うタイミングなど、とても参考になるゲームだった。
- 同じようなケースでコールしたものとノーコールのものとの見解について。
- L（リード）の見方について。

8. 大会を通して

この度は、関東中学校バスケットボール大会に派遣していただきありがとうございました。他の都県の審判員の方々と、様々な見方や考え方について話しながら交流させていただくことで、多くのことを学ぶことができました。また、自分の取り上げた1つのコールを、プレーヤーだけでなくベンチや観客、会場全体に分かりやすくシャープに伝えるプレゼンテーションの大切さも、改めて実感することができました。



審判会議の中で、渡邊ブロック長から「POCにこだわらしましょう！」というお話がありました。POCが正しく判定できることが、プレーヤーやベンチからの信頼や、クリーンなゲームにつながっていくと思いました。そのためにメカニクスがあり、クルーとの協力が必要であると、強く感じました。今大会で感じたことや、ご指摘頂いた課題を、所属の地区大会から意識して取り組み、レフリーとしての力量をアップしていけるように努めていきたいと思います。また、今大会の経験を地区や連盟に伝えていきたいと思います。

最後になりますが、大会中お世話になりました埼玉県の大大会役員・審判員の皆様、ご指導いただきました本部・指名審判員の皆様、並びに派遣審判員の皆様、大会中たくさんのお心遣いをいただき本当にありがとうございました。そして、派遣していただきました神奈川県協会・県審判グループの皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。